

小謡原爆の鐘 祈る 悲しみの鐘

福山の能楽師 大島さん創作 広島に不動院に奉納

喜多流能楽師の大島衣
恵さん(33) 〓福山市 〓
が、被爆直後に多数の負

傷者が避難した広島市東
区の真言宗不動院の梵鐘
をテーマに原爆の悲惨さ
を伝える小謡「悲鐘」を
創作し、二十九日、奉納
した。

小謡は能の短い詞章に
節を付けたもの。この日
は大島さんをはじめ、喜
多流大島家の関係者約十
五人が国宝の不動院金堂

で誂い、本尊の薬師如来
坐像に手を合わせた。
「牛田の里の梵鐘 黒
き雨降りしきる日にも鳴
りしかも」「原爆に潰え
し街に信相菩薩 舞い降
る天女の姿 蓮台に座す
は誰が人」
同寺に約四百年間伝わ
る鐘をモチーフにあの日
の情景に思いをほせ、儀



07/08/30
中国新聞

back

死者を弔う詞は大島さん
の母親で喜多流大島能楽

不動院金堂で、原爆犠
牲者を鎮魂する「悲鐘」
を誂う大島さん(前列
左から3人目)

堂事務局長の泰子さん
(62)が、中学・高校時代の
恩師が詠んだ短歌を下
敷き書き下ろした。
大島家は明治維新後、
福山で喜多流を継承し、
大島さんは一九九八年に
女性として初のシテ方と
なった。念願の奉納を終
えた大島さんは「平和を
祈念する場面では、今後
も必ず誂いたい」と誓っ
た。(藤村潤平)